

Ⅳ 「お互いさまスーパー」の新たな機能の提案

1 送迎サービス 【買い物機能の発展】

車を持たない高齢者や一人暮らしの方などの手軽に利用できる交通機関がほしいというニーズに対応するために、「お互いさまスーパー」へ買い物に来店される方を車で送迎する機能です。

各地で「お買物バス」や「デマンドタクシー」等の幅広い取組み事例がありますが、地域性を十分考慮したうえで送迎地域や回数を限定する等小規模な取組みから始めていきます。

(1) メリット

- ・店舗までの移動手段がなかった高齢者などの来店を促すことで、売上増加を図ります。
- ・来店する機会を高めることにより、高齢者を含む地域住民交流の活性化を図ります。
- ・自宅への送迎により見守り・安否確認機能が期待できるほか、送迎中の運転手との対話による交流がはかれます。

(2) 取組方法と注意点

- ・送迎用自動車と運転手の確保が必要です。
- ・送迎時間などは柔軟な対応が望ましいですが、まずは地域住民の要望を確認しましょう。
- ・許認可の関係を踏まえて、送迎料金を設定しましょう。送迎にかかるコストは、来客数増加による売上でカバーしていくことになります。
- ・地域の社会福祉協議会等、関係機関と連携し送迎することも考えられます。

(3) 既存店舗への提案

- ・店から離れた自宅に暮らす住民が多い「仙道てんぼ」、「赤田ふれあいスーパー」に適した機能と考えられます。
- ・両店舗についても、送迎用車輛の確保が課題となります。中古車購入等、初期費用を抑える工夫をしましょう。
- ・また、車輛の維持費（車検やガソリン代等）についても、月次の資金計画を十分に考慮するなど、仕入等の運転資金に影響しないよう検討していく必要があります。
- ・運転手については当面従業者で対応することになりますが、ボランティアを募集する等経営面に支障をきたさないよう工夫していきましょう。

島根県雲南市 波多コミュニティ協議会「はたマーケット」

「地域内交通たすけ愛号を運行」

島根県雲南市の「はたマーケット」は、お互いさまスーパーと同様、地域内に唯一あった商店の閉店を機に設置された、地域協議会が運営するミニスーパーです。

はたマーケットでは、車を持たない高齢者の方、一人暮らしの方が手軽に頼める交通機関があればうれしいとの要望があり、「たすけ愛号」の運行をしています。無料送迎しており、利用者にはお店で買い物をしていただいています。自動車は、島根県の事業によって取得し、協議会が所有しています。

- ・ 開設：ふるさと島根定住財団の助成金、地区住民からの寄付金等により、平成 26 年 10 月 8 日オープン。
- ・ 営業時間：毎週月曜日～土曜日、午前 9 時～午後 6 時まで。
- ・ 店舗：一般的なコンビニエンスストアの半分以下である 30～40 m²程度。交流センター（旧波多小学校）の一室にて営業、喫茶スペースを隣接。
- ・ 品揃え：野菜、肉、飲料、加工食品等 1,000 品目程度。生活に困らない程度の品揃えとし、特売も行っている。
- ・ 従業員：4 名（交流センター職員業務とマーケット業務について役割分担しながら対応している）。
- ・ 取組概要：全日本食品㈱が開発した「マイクロスーパー」を導入（半径 5 km の商圈人口が 1,000 人、日商 10 万円程度で事業化可能な小規模食料品店）、平成 27 年は延べ 1,474 人が利用している。
- ・ 機能：買い物をした方に無料配達も実施。買い物支援機能にサロン機能を追加（買い物後に出会った人同士がお茶を飲みながら交流できる毎週水曜日の喫茶デー、月一回の DVD 映画鑑賞・健康体操を実施等）。また、安否確認やひきこもり防止等の福祉サービスの機能も併せ持っている。



【買い物の様子】



【たすけ愛号】

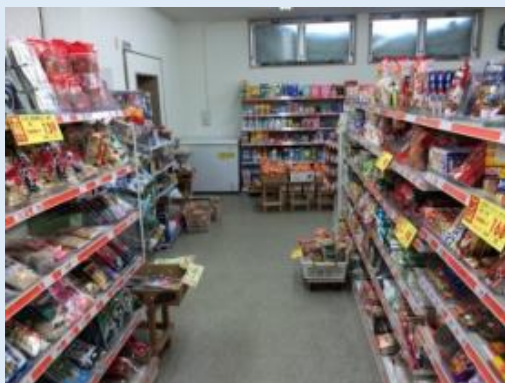
新潟県十日町市 合同会社うらだ「スーパーふれあい浦田」

「送迎バスを運行し地域の生活を支えるミニスーパー」

浦田地区では、地域にあった A コープが撤退したことから、地域で資金を募り住民自らが運営する合同会社を設立し、ミニスーパーをオープンしています。開設時は、補助金を活用し、店舗改装と送迎バスを購入しています。

毎週土曜日の特売日に合わせ、送迎バスを浦田地区と隣の室野地区を運行しています。送迎バスの運転手は有償ボランティアで担っており、1日2ルート・労働時間3時間程度で2,000円とし、人件費を抑制しています。

- ・ 開設：店舗は十日町市が旧 A コープを J A から譲受け、改修後ふれあい浦田に貸与（国土交通省と経済産業省の補助事業として約 5,900 万円かけて改修工事）。地域住民から 405 万円の資本金を集め「合同会社うらだ」を設立し、平成 23 年 3 月に「スーパーふれあい浦田」をオープン。車輛購入費・改造費・店舗内装等については、平成 22 年度地域商業活性化事業（買い物弱者対策支援事業）を活用。
- ・ 営業時間：毎週月曜日～土曜日、午前 9 時～午後 6 時まで。
- ・ 店舗：1 階がミニスーパー（93㎡）、2 階が体験交流室と調理室。
- ・ 品揃え：惣菜等の食品全般、酒類等。
- ・ 従業員：4 名（A コープ時代店員として働いた経験豊富な人材 2 名を含む）。
- ・ 機能：スーパーの一角にある「お茶の間広場」にて、買い物をした後に話しながら交流ができる。週一回の無料送迎バスとお茶の間広場での集まりが地域住民の活力につながっている。送迎バスが運行する土曜日に特売日を設定することにより売上アップを図っている。



【商品が並ぶ店内】



【雪の日に運行する送迎バス】

2 配食サービス／コミュニティレストラン 【買い物機能の発展】

「配食サービス」は、食事の用意に困っている高齢者を対象に自宅へ食事を配達するサービスです。また、「コミュニティレストラン」とは「楽しく働き、おいしく食べる、くつろぎの場」であり、地産地消を目指した「地域の食卓」として地域住民の健康づくりを応援する機能です。

両サービスともに、「高齢者が一日に一食でも栄養バランスの取れた温かい食事を食べることができれば良い」というコンセプトを実践するものです。

(1) メリット

- ・ 食事の提供によって来店客数が増え、商品販売も増加します。
- ・ 地域農産物などの活用によって地産地消が促され、地域経済の活性化を図ります。
- ・ 高齢者の配食ニーズは高く、健康的なメニューの提供で住民の健康維持に貢献できます。
- ・ 配食による訪問、継続的に来店するお客さんの、見守り・安否確認機能も備えられます。

(2) 取組方法と注意点

- ・ 調理担当者の確保と、調理設備の整備が必要です。
- ・ 食品調理に関する許認可の取得が必要です。
- ・ 食材原価、人員コストなどを勘案して、適切な料金を設定しましょう。

(3) 既設店舗への提案

- ・ 近隣住民の利用が多く、すでに「食堂」を運営している「みせっこあさみない」に適した機能と考えられます。
- ・ 「コミュニティレストラン」については、「減塩」で「栄養バランス」の取れたメニューを安価で提供する取組みであることから、栄養士等からのアドバイスが必要となります。また、スタッフに対する「メニュー」や「味付け」等調理スキルの統一が課題となります。
- ・ 「配食サービス」への取組みについては、配達用車両の確保が課題となります。中古車の購入等、初期費用を抑える工夫をしましょう。
- ・ また、車両の維持費（車検やガソリン代等）についても、月次の資金計画を綿密に考慮するなど仕入等の運転資金に影響しないよう検討していく必要があります。
- ・ 運転手については従業者で対応することになりますが、ボランティアを募集する等事故防止の観点からも無理のない人員での運営を実践しましょう。

青森県青森市 活き粋あさむし「浅めし食堂」

「高齢者へ一日一食栄養バランスのよい温かい食事を提供」

少子高齢化が進む浅虫地域では、商店も減り、食の課題が大きくなる中、浅めし食堂は、おいしく、安心して、健康な料理を提供しようと生まれました。観光地としての浅虫温泉が寂しくなる中、若い世代にも浅虫には素敵な場所があると思ってもらいたく、多世代が自然に集い、いきいきできる場所を目指しています。

高齢者への食事宅配のほか、お惣菜・日常用品の販売も行っています。

- ・ 開 設：NPO法人「活き粋あさむし」の理事長（地元出身の医師）が建物を買い取り、家賃を無料とし「浅めし食堂」を平成15年10月にオープン。経済産業省委託事業・市民ベンチャー事業・県地域づくり推進ソフト事業の助成を受け、技術開発・人材教育・広報等に活用。その他の基盤整備に係る経費は自己資金にて対応。
- ・ 営業時間：年中無休、午前11時～午後5時まで。
- ・ 品 揃 え：栄養バランスのとれた一汁三菜のランチに加え、カフェメニュー、自家農園で浅虫の温泉水をかけて育てたトマトのゼリー、自家農園野菜のプリン等スイーツ類も充実。惣菜や肉類の販売も人気。
- ・ 従 業 員：11名（食堂従事、高齢者生活支援サービス、弁当配達、農園）。
- ・ 機 能：会合用弁当を中心に、一定の金額以上の注文・あるいは高齢者・障害者を対象に仕出しも行っている。定食は、開店当時から1食650キロカロリー以下塩分4グラム以下に抑える工夫をしている。一人分の量で日持ちがするよう真空袋に入れ販売している。洗剤・ティッシュ・トイレットペーパー・調味料等の日用品も販売している。農業特区を活用し、減農薬で約15種類の野菜を通年で生産し食堂の食材として利用している。



【食事の風景】



【弁当／500円】

東京都稲城市 NPO 支え合う会みのり「会食交流会・配食サービス」

「食事の用意に困っている高齢者向け配食サービスを実施」

配食サービスは、月1回から選べる夕食を一食 620 円で提供しています。利用者は 120 人程度で、ほぼ毎日利用しています。また、配達の見守り効果もあり、利用者と地域のつながりができています。

会食交流会は、食事だけでなくコミュニケーションの場になっており、歓談しながら普段よりも楽しく食事ができると利用者からは好評です。

- ・概 要：昭和 58 年よりボランティア団体として活動開始し、平成元年より毎日型食事サービスをスタート。平成 12 年にNPO法人格を取得し、稲城市を中心とした地域の9つの公共施設を利用した会食交流会サービス及び食事の用意に困っている高齢者等を対象とした夕食の配食サービスを実施。
- ・取組内容：会食交流会は月に 12 回程度開催。配食サービスは毎週月～金曜日の週5日間、夕食を届けている（一日 120 食対応）。
- ・年 会 費：2,000 円。（会食交流会・配食サービス利用者）
- ・従 業 者：会食交流会はスタッフとボランティア合わせて 10～15 名程度で対応。配食は4コースあり4台の専用配達車にてスタッフとボランティア合わせて 20 名程度で対応。
- ・特 徴：減塩、お粥、魚の骨の取り除き等個別要望に応じており、健康状態に対応した食事の提供を実施している。配食訪問による生活支援、見守り、安否確認等の機能もある。
- ・取組効果：地域住民が会食交流会や配食の活動に取り組むことで、地域コミュニティの形成と生活面での利用者への安心感を与えている（孤立の防止等）。



【調理の様子】



【会食の様子】

3 地域防災拠点機能 【交流拠点機能の発展】

「お互いさまスーパー」が持つ「地域の拠点施設」としての機能を活かし、災害発生時等における地域防災拠点としての役割を担うことが可能です（飲食料品やトイレ設備等の提供）。

高齢化が進む地域における防災対策機能等の確保に向け、高齢者の日常的な交流施設である「お互いさまスーパー」において、定期的に防災対策講習や訓練を行う取組を実践します。

(1) メリット

- ・ 地域住民の防災意識の向上につながります。
- ・ 災害発生時における、高齢者の避難場所や役割分担等の認識につながります。
- ・ 非常時の食料品備蓄機能としての役割を担うことが可能です。

(2) 取組方法と注意点

- ・ 防災訓練のイベント等を実施することから、取組を始めましょう。
- ・ 防災活動や防災訓練については、市町村や地域の自主防災組織と連携しましょう。



新潟県柏崎市 松美町町内会

「地域の力で進める防災まちづくり」

- ・概 要 : 松美町町内会は、437 世帯、人口 1,116 人のうち、高齢者が 255 人（22.4%）を占める地域。町内会行事を始めとした様々な活動を通じて地域の結びつきを強めている。同町内会では、新潟県中越地震をきっかけに自主防災会を立ち上げ、被災経験を活かしながら防災訓練、災害時要援護者対策などを実施している。
- ・取 組 : 地域の災害対応力をより高めるために、被災経験を整理して教訓集「災害に強いまちづくり～新潟県中越地震の教訓から～」としてまとめたほか、「松美町自主防災計画」の改定にも取り組んでいる。また、災害時に道路情報、防犯活動の情報伝達を容易にするため、町内の道路 1 本 1 本に命名している。
- ・特 徴 : 災害対応のためのハード対策のほか、災害時に頼りにできる地域コミュニティづくりにも力を入れている。町内会行事の実行委員は地域住民から選出する決まりとなっており、地域住民の誰もが行事に携わることで全員参加型の地域コミュニティを目指している。また、高齢者のデイケアセンターである松美サロンは高齢者の交流の場となっており、松美町内会のメンバーが運営している。松美サロンでは、高齢者の方が町内の防災活動への取組に参加したくなるように継続的に運営を行っている。

【お互いさまスーパーでの取組に向けて】

地域住民が日常利用する「お互いさまスーパー」の規模は、防災意識の醸成に適していると考えられます。地域住民がお互いに助け合うには、日頃のコミュニティづくりが重要となります。

4 子育て世代支援（応援）機能 【交流拠点機能の発展】

高齢者の交流拠点を活用し、「高齢者による子どものあずかり」や「高齢者と子どもの世代間交流」等の活動ができる機能を地域内外の子育て世代にPRします。

高齢者の生きがいのみならず、子育て中の若い親世代や子どもとの交流により、核家族化等で失われつつある世代間交流・継承につながります。

(1) メリット

- ・ 高齢者だけではなく、子どもから子育て世代も含めた多世代の交流が図られます。
- ・ 将来の店舗運営の継続を見据えて、次の担い手となる若年世代との関係を構築できます。
- ・ 子どもを対象とした魅力的なイベントなどは、地域外からの来店が期待できます。
- ・ 若い世代の来店客が増加することにより、売上アップにつながります。

(2) 取組方法と注意点

- ・ 取り組み易さの観点では、子どもを対象としたイベント開催から始めることが有効です。
- ・ 市町村ごとの「ファミリー・サポート・センター事業」との連携も考えられます。
- ・ 地域内の高齢者による子育て経験を活かしていきましょう。



「岩沼市生活学校」(宮城県岩沼市)

「子育て支援ボランティア活動の実践」

- ・概 要 : 昭和 43 年に活動を開始した女性を中心とする高齢者の集まりで、市の放課後対策事業「のびやか教室」に参加し、市内の小学校にて「学習アドバイス」「食育」「紙芝」「昔あそび」の他、季節行事を行っている。
- ・特 徴 : 「岩沼市子育て支援センター」では、子育て支援の拠点として子育て支援ボランティアへ向けた各種講座や交流会を開催する等、地域で子育てを応援できる取組を実践している。また、子育て支援ボランティア活動のサポートとして、「岩沼市内外で行われる子育て支援関係研修のお知らせ」や「活動場所の提供（岩沼みなみプラザ・ボランティア室の無料利用）」等のお手伝いをしている。
- ・取 組 : 主な活動内容としては、センター主催の事業における子どもの遊びの見守りや「ファミリー・サポート・センター事業」がある。この事業は、子どもを預けたい方と預かる方が会員登録し、地域を挙げて子育て支援する有償ボランティア事業である。
- ・謝 礼 : 「ファミリー・サポート・センター事業」の謝礼については、一回の活動修了後に直接支払う。
昼間：1 時間 700 円、それ以外 1 時間 800 円
送迎援助謝礼：一人一回 200 円（公共交通機使用時は実費支払い）



【子ども遊びの見守り】



【子育て支援センター】

「つねよし百貨店」（京都府京丹後市）

「地域に住む人が幸せに暮らせるための百貨店経営」

- ・ 概 要 : 経営不振等により閉店した「常吉村営百貨店」を、地域おこし協力隊OBの東田氏が引き継ぎ、地域の拠点機能を存続させたいという思いで平成24年11月に営業を再開。日本一小さい百貨店として、高齢者や子どもが安心して暮らしていける店づくり、ふるさとを誇りに思い将来「常吉」に住みたいと子ども達が思える地域づくりを目指している。
- ・ 特 徴 : 陳列する商品は最小限に絞り、地元で採れた旬の野菜や地域の高齢者が手作りした保存食を販売。店舗内は市場規模に合わせ商品棚のスペースを従来の1/4に縮小。電気代の高い大型冷蔵庫を撤去し小型冷蔵庫1台を設置、暖房設備を薪ストーブに替え木材を無料調達するなど経費削減を徹底的に実践している。肉や魚等の生鮮食品については午前11時までに注文を受け付け、地元のスーパーから調達したものを当日中に配達している。配達先では、高齢者との対話等コミュニケーションを強化することで、安否確認や見守り機能を実践している。
- ・ 従業員 : 開業当初は3名であったが、現在は代表者1名で経営。
- ・ 子育て : コミュニティスポットとしての拠点を目指し、店舗の2/3を「子供スペース」や「フリースペース」とする等、子供達が集まり世代間のつながりができる場所を提供している。



【来店する子ども】



【店舗外観】